

NotebookLMの現状評価と 業務適用への提言

2026年1月版：技術動向分析および導入戦略

SUBJECT: Intellectual Production Infrastructure Assessment
CONTEXT: Strategic Proposal for Executive Review
DATE: January 2026

情報閲覧ツールから「知的生産インフラ」への進化

役割の転換

1

NotebookLMは単なるドキュメントリーダーから、スライドや図解を自動生成するクリエイティブ・パートナーへ進化した。導入により資料作成の初動工数を劇的に圧縮可能である。

技術的課題

2

最大の障壁は「Painter型」モデルによる編集不可のPDF出力仕様である。実務利用にはここを突破する必要がある。

解決策

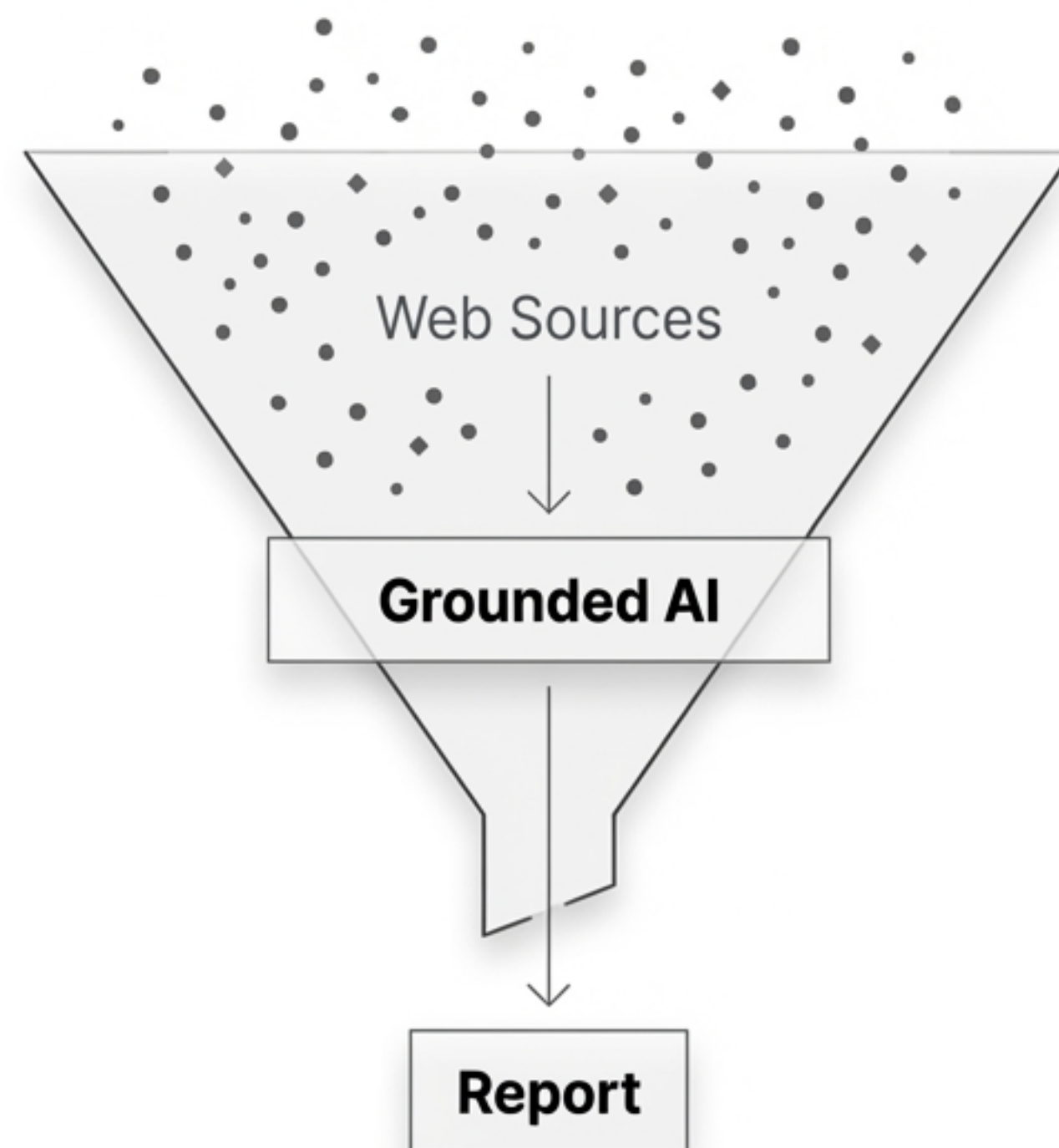
3

外部変換ツール（Kirigami等）をワークフローに組み込むことで、PDFを編集可能なPowerPoint形式へ変換し、業務定着を実現する。

Deep Researchによる 調査業務の完全自動化

Web全体を対象とした自律的な情報収集

- ・新機能「Deep Research」の実装により、広範なWebソースからの情報収集と包括的なレポート作成が自動化された。
- ・ユーザーはテーマを提示するだけで、信頼性の高いソースに基づいた（Grounded AI）基礎調査が完了する。
- ・これにより、人間は「情報収集」ではなく「意思決定」に時間を割くことが可能となる。



Nano Banana Proがもたらす視覚化の革新

テキスト指示のみで完結する高品質デザイン

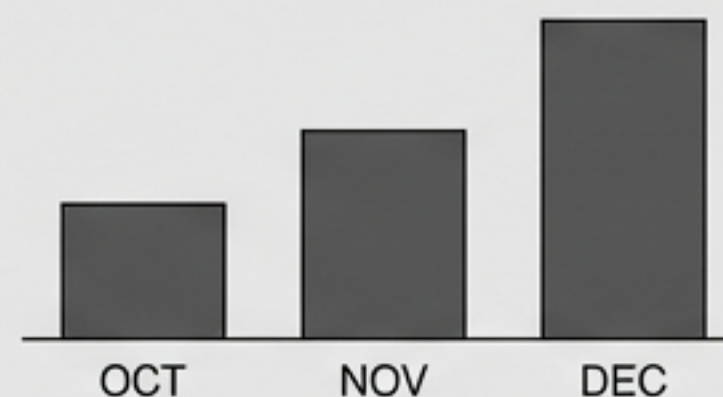
テキスト指示例:

- ・シンプルでモダンなデザイン
- ・Q4の成長を示す棒グラフ
- ・タイトルは「2025年Q4の実績」
- ・カラーはモノクロ

Input: Prompt



2025年Q4の実績



Output: Visual Asset

2025年Q4のアップデートにより、最新画像生成モデル「Nano Banana Pro」を搭載。テキストプロンプトから直接、デザイン性高いスライドデッキやインフォグラフィックの生成が可能となった。

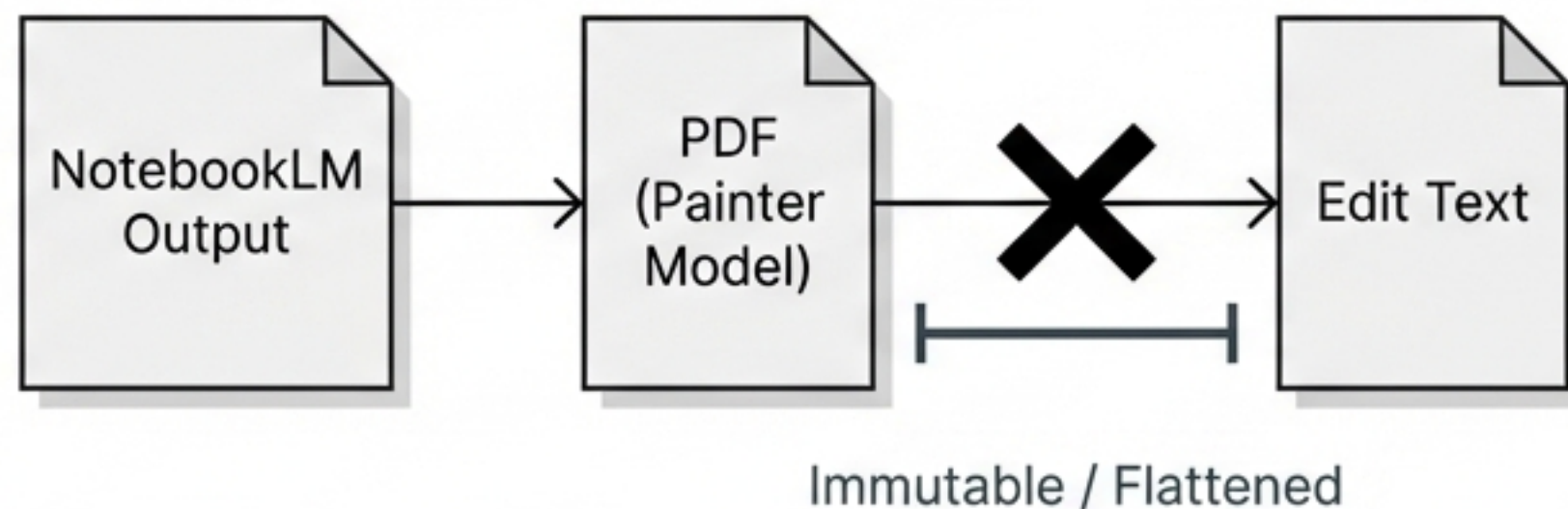
****実績****: 既に教育現場や公務において、議事録や保護者向け文書の作成で実用化が進んでおり、社会的信頼を獲得している。

実務適用における最大のブロッカー： 「Painter型」の制約

編集不可能性 (Immutable Output)

NotebookLMの生成物は、文字や図形が分離していない「一枚絵 (PDF)」として出力される (Painterモデル特有の仕様)。
ビジネス現場では必須となる「テキストの微修正」や「オブジェクトの再配置」が NotebookLM単体では不可能である。

GeminiはPPTX出力が可能だがデザイン力が低く、NotebookLMはデザイン力が高いが編集できないというジレンマが存在する。



外部変換エコシステムによる 編集フローの確立



Kirigami / NoteSlide: これらのPDF変換ツールを中間層として導入することで、静的なPDFをレイヤー分けされた編集可能なPPTXファイルへ変換する。この「変換プロセス」を標準フローとすることで、NotebookLMのデザイン力とPowerPointの編集柔軟性を両立させる。

運用上の留意点とリスク管理

01. 一貫性の維持 (Consistency)

キャラクターやトーン&マナーの統一には、高度なプロンプトエンジニアリングと参照画像の固定テクニックが求められる。



02. コンプライアンス (Compliance)

人物の顔写真生成などは安全ポリシーで制限される可能性がある。外部変換ツールを利用する際のデータセキュリティ確保（機密情報の取り扱い規定）が必須となる。



業務プロセス変革による 圧倒的な工数削減

従来プロセス

Hours / Days

新プロセス

Minutes

Deep Research → 自動生成 → 変換・微修正

Holy Sivities Now Surrealige について *thin* のコーサーが作成する微修正に変換・削減する。
「ゼロからイチ」を作る工程をAIが担い、人間は「仕上げと判断」に集中する。これにより、資料作成の初動負荷を90%以上削減する。

次月のアクションプラン：編集環境の整備とスキル定着

Month 1: 検証

Kirigami、NoteSlide等の変換ツールの精度検証と選定。実務ワークフローのプロトタイプ作成。

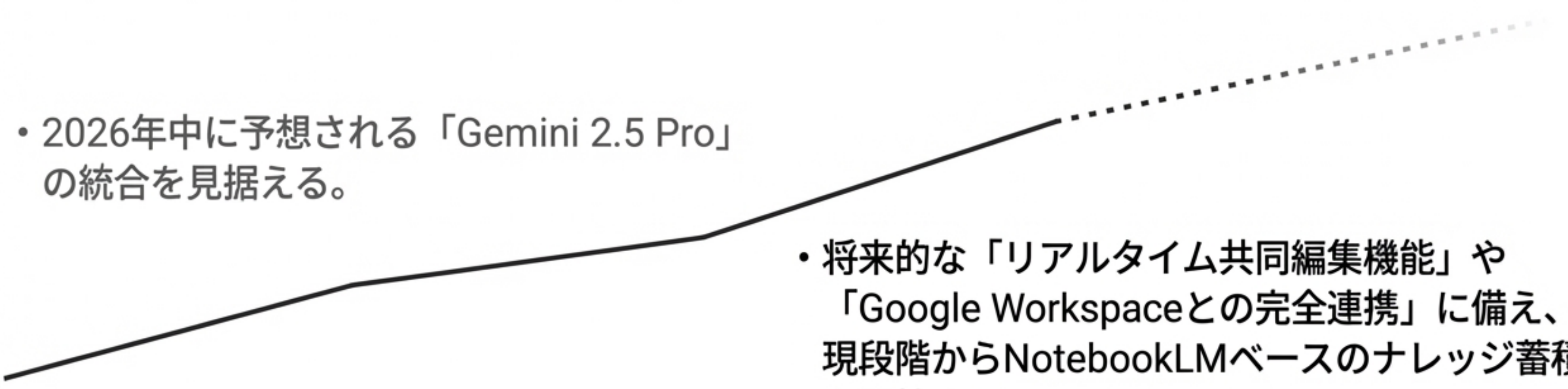
Month 2: 資産化

部署別（営業、企画、開発）に最適化された「スライド生成用プロンプトテンプレート」の策定と共有。

Month 3: 展開

全社的な利用ガイドラインの周知と、セキュリティ教育の実施。

将来展望：Gemini 2.5 Pro統合への備え

- 2026年中に予想される「Gemini 2.5 Pro」の統合を見据える。
- 

- 将来的な「リアルタイム共同編集機能」や「Google Workspaceとの完全連携」に備え、現段階からNotebookLMベースのナレッジ蓄積を開始する。

**今、運用体制を構築することが、
次世代の競争優位性に直結する。**